

空母「ジョージ・ワシントン」のメンテナンスとして行われる放射能にさらされた固形廃棄物の横須賀における移送に関する合衆国政府からの説明

空母「ジョージ・ワシントン」は、2008年9月から横須賀に前方展開している。この艦船は通常のメンテナンスが必要であり、このメンテナンスにより、放射能にさらされ、強固でしっかりと密封されたコンテナに適切に梱包された固形廃棄物を直接空母「ジョージ・ワシントン」から専用の施設船（2009年に実施した移送の場合は、軍事海上輸送コマンドの艦船「ノーブル・スター」）に移送することが必要となる。合衆国政府は、この移送について、以下のとおり説明する。

2006年の合衆国原子力軍艦の安全性に関するファクトシートにおいて述べられているとおり、合衆国政府は、1964年のエード・メモワール、同年の外国の港における原子力軍艦の運航に関する合衆国政府の声明及び1967年のエード・メモワールにおけるものを含め、確固たるコミットメントをこれまで行ってきた。合衆国政府は、これらのコミットメントのありとあらゆる面が引き続き堅持されることを表明する。特に、合衆国政府は、放射能にさらされた固形廃棄物の空母「ジョージ・ワシントン」からの移送がこれらの合衆国政府のコミットメントに合致していることを確認する。

推進装置の通常のメンテナンスは、空母「ジョージ・ワシントン」の安全及び正常な運航を確保するために実施される。推進装置のメンテナンス作業の一部には、非常に低レベルの放射能を帯びた構成物及びシステムの通常の定期的なメンテナンスが含まれている。非常に低レベルの放射能であるものの、合衆国海軍は、この作業のために厳格な放射能管理を求めている。日本では、放射能管理を必要とする空母「ジョージ・ワシントン」の推進装置のメンテナンス作業は、艦内でのみ実施される。この作業は決して日本の陸上では実施されない。この作業は、原子炉の修理¹又は燃料交換ではない。2006年の合衆国原子力軍艦の安全性に関するファクトシートにおいて述べられているとおり、燃料交換及び原子炉の修理は、いかなる外国においても行われぬ。原子炉の修理及び燃料交換は、適切な特別の装置を用いて、かつ、合衆国海軍原子力推進機関プログラムが認めた施設（合衆国国内にのみ所在する。）においてのみ行い得る。

上述した推進装置のメンテナンス作業では、非常に低レベルの放射能を帯びた雑巾、プラスチック・シート、作業手袋等の少量の固形廃棄物が発生する。この放射能は、一次系における腐食物及び機械的摩耗から発生する極めて微量の金属片から生じるものであり、この金属片がメンテナンス作業中に固形廃棄物に付着することとなる。この放射能は、燃料中の核分裂生成物から生じるも

¹ 1964年のエード・メモワールにいう「動力装置」は、原子炉そのものを指している。この用語は、2006年の合衆国原子力軍艦の安全性に関するファクトシートに合致している。

のではない。燃料は極めて頑丈に設計されているので、燃料中の核分裂生成物は、燃料からは決して放出されない。低レベルの放射能を帯びた固形廃棄物の発生は、通常のメンテナンスにおける正常な、かつ、想定される副産物である。補足すれば、固形廃棄物を梱包し、密封したコンテナの至近の放射能レベルは、一般に低いものであって、岩石や土壌のような線源からの自然界のバックグラウンド放射能のレベルよりも大きなものではない。

空母「ジョージ・ワシントン」からの低レベルの放射能を帯びた固形廃棄物の移送は、この艦船の適切な状態及び高い即応性を維持するために必要な措置である。合衆国政府は、強固でしっかりと密封されたコンテナに適切に梱包された固形廃棄物を直接空母「ジョージ・ワシントン」から専用の施設船に移送する。この移送は、コンテナを日本に陸揚げすることなく完了される。1964年のエード・メモワールは、固形廃棄物が、承認された手続に従い、合衆国の沿岸の施設又は専用の施設船に運ばれたのち、包装され、かつ、合衆国内に埋められると述べている。また、1964年のエード・メモワールは、放射能にさらされた物質は、通常、外国の港にある間は、原子力軍艦から搬出されることはないと述べている。1964年のエード・メモワールにいうこの「搬出される」とは、日本の陸上に搬出されるという意味と理解される。したがって、固形廃棄物を合衆国内で廃棄するため、その固形廃棄物を日本に陸揚げすることなく、直接空母「ジョージ・ワシントン」から専用の施設船に移送することは、1964年のエード・メモワールに含まれるコミットメントに完全に合致している。